

報告者 狩野 裕考

国際会議名：12th Congress of International Society of Developmental and Comparative Immunology

福岡（7月8日～7月14日）

International Society of Developmental and Comparative Immunology

(ISDCI)は、様々なモデル生物を用いた免疫学研究者の国際的な集まりである。免疫系の進化は生物の進化と関連しているので、異なるモデル生物の研究から、ある免疫システムがどのあたりの進化で生じて、どこからどこまでの生物で保存されているのか、そしてどのような必要性で生じたのかを明らかにすることができる。会場で見受けられたモデル生物は、ショウジョウバエ、カイコ、カブトガニ、ヤツメウナギ、カエル、マウス、そのほかウニやホヤなどが上げられる。また、モデル生物を利用した基礎生物学だけでなく、食料資源となるさまざまな海洋生物についての免疫学研究を大きく扱っていた。たとえば、アサリやカキなどの貝類（フランスの研究グループなど）、エビなどの甲殻類（東南アジアの研究グループなど）、コイ、フグなどの魚類が見られた。これら以外にも、あまり見ることはない生物を含む、さまざまな脊椎動物、無脊椎動物が取り上げられていた。緑藻を除いて植物免疫は扱っていなかった。

会場で発表された研究のうち、いくつかのものでは、ひとつの生物種に存在する免疫システムを明らかにすることで、免疫系の進化過程や生物種全体の中の位置づけを華麗に説明することに成功していた。発表者とは、最終日のディナータイム・授賞式で同席することができ、ディスカッションを通じて多くの刺激を受けた。

私の発表は、2日目にポスター形式で行った。今回のポスターセッションでは3時間と十分な時間が確保されていたため、余裕をもって深い議論ができた。ディスカッションを通じて、今回の研究ターゲットが占める免疫系に対する位置づけと生理学的意義について、また、予測されるシステムの保存性などについて言及することができた。

英語を用いたディスカッションを経験して、よりさまざまな語彙が必要であると感じた。同じような質問と回答でも、会話の流れや相手の求めに応じて、伝えたいニュアンスを変化させることが重要である。今後、より多くの英語発

表とディスカッションを経験して、研究成果を上手に伝えられるような語学力を身につけたい。

今回の国際学会派遣によって、現在の研究を発展させていく上の課題、研究成果を公開し共有していく上での課題を発見することができた。これらを、今後の研究に十分に活かしていきたいと考えている。